

## 性教育の構造化と障害児教育

西 信 高\*

Nobutaka NISHI

Reconstructing of Sex Education for Disabled Children

**Abstract** Recently a great meeting of sex education was held in Shimane prefecture, and teachers discussed about many problems of sexuality for disabled people.

The matter of primary concern of participators was masturbation and other sexual behavior of mentally retarded children. There was a little argument about fundamental viewpoints to instructing disabled children in sex problems.

It is necessary to define the purpose of sex education, lack of which causes dealing with their sexual behavior administratively and individually.

In considering such a purpose the theory of Makarenko, A.S. is suggestive. He has been based on materialistic dialectic. We can not find the mutual relation among their marriage, love, sex and other problems without investigating the natural and social development of human beings.

### はじめに

84年8月、「全国性教育研究大会」が松江市で開かれた。そこでは、「心身障害児・者における性教育」という分科会も設定され、従来この分野には関心の薄かった筆者も参加した。全体では延べ600名程度の参加であったが、この分科会は60名を超え、これまでの大会の最高であったという。分科会運営担当者によれば、今回ははじめての参加者が圧倒的多数を占め、その大半が学校教育関係の職員であった。

そのような事情であれば、前回までの分科会討議の蓄積を反映した議論にはなりにくい面もあり、また年数を費して検討が重ねられた、いわゆる先進的な実践も必ずしも多くはないと考えられる。しかし逆にいえば、そこでの議論は、現在わが国の障害児教育における性教育が一般にどのように実践されているかの傾向を示すものとも考えられる。

分科会での議論は多方面にわたったが、それにしても技術的な側面、とくに masturbation への対処の方法について話題が集中した感がある。アメリカの Gordon, S. (1979) は、ちえおくれの施設へでかけたとき、「指

導員と保母さんとの質疑応答の際、大半の質問は、『どうしたら masturbation をやめさせられるか?』に集中しました。この施設の職員の努力のほとんどは、masturbation の発見と防止に費されていたのです」といっているが、まさにこれと似た状況がみられたのである。

そのような性的表現や行動をとる子どもと日常的に接している当事者にすれば、それに対処する現実的な方策が切実に求められるのもやむをえないといえる。しかし、他方で、性とは何か、そして性教育とは何かについて、理念的・原理的なレベルでの検討が必要なのではなからうかということを感じた。

現在の学校教育では、積極的に性教育にとりくんでいる教員は少なく、また学校全体としてとなると一層限られている。それはけっして性教育の必要性についての過小評価が原因しているのではない。

ある都市の20校の教員を対象とした調査によれば、「性非行、性行動が低年齢化しているので、生徒指導上から」「性に対する正しい知識や態度を育てるために、計画的系統的な指導が必要であるから」性教育は必要と考える教員が94%を占めている<sup>2)</sup>。しかし、実際に実施に移すとなると、別の調査(回答者376名)<sup>3)</sup>によれば、中学校で性教育の授業を1単位以上実施したところのあるも

\* 鳥根大学教育学部障害児研究室

のは25.8%, ないものは72.4%となり, 実施したことのないものの理由は, なにをどう指導してよいかわからない36.6%, 指導計画がない21.2%となっている。それなら指導計画が手に入ればどうするかという問いに対して, 実施したい18.1%, まあしてみたい52.4%, したくない27.4%という回答がよせられており, どちらにしても実施には消極的である姿が示されている。

これは, Gordon がいう「(10代の少年少女が生きていく上でセクシュアリティを無視できないということを承認すれば) 両親も教師も自分自身にとっての性と, 障害児の性を区別して考えることはできないはず。障害児と接する人びとは, 自分のセクシュアリティの理解を, より深めることによって, 彼と彼女たちの性の問題の扱いに反映させるべきでしょう<sup>4)</sup>」という点が, 健全児に対するときにもあてはまる, つまり不可避免的に教員自身の性および性についてのとらえ方が問われることも大きく原因しているのではなかろうか。

そしてセクシュアリティが, 「広い意味で, 人間の性に関する肉体的・精神的絆を伴った(さまざまな葛藤も含めて) 人間関係全般にわたる概念<sup>5)</sup>」であると理解するならば, 「性に対する正しい知識や態度」の指導が必要といえても「正しい」の意味内容の明確化には相当の検討を要するのであって, この追求と合わせてでなければ性教育の積極的なとりくみは生まれえず, また性教育がおこなわれたとしても, 結局生殖教育あるいは管理的「非行対策」にしかかなりえないのである。

わが国では必ずしも一般的になっていないが, 性教育をそのようにヒューマニティ, ヒューマンリレーションの問題とかかわらせて考える傾向は広がりがつある。性教育の先進国とされるスウェーデンでは, sex Education に対応する用語はすでにほとんど用いられておらず, 専ら Samlevnadsundervisning という用語によって, この日本語訳として「共同生活授業」が定着しはじめているが, 英訳では, Instruction Concerning Interpersonal Relation とされている<sup>6)</sup>。

このように, 性教育を考えるうえでは, 人間の「性」を「生」と不可分のものとして<sup>7)</sup>, その相互連関を追求することが重要な課題となってくる。

小論では, そのような認識にもとづき, 性教育における基本的原理に関する諸理論を, Makarenko, A. S. を中心としてとりあげ, それを基盤に, 当面する障害児の性教育についての若干の問題を検討する。

### I Makarenko, A. S. の性教育観とその基底

まず, Makarenko の性教育観を以下に概観する。<sup>8)</sup>

Makarenko は, 性教育の問題は教育学上むづかしい問題のひとつだといわれ, またまちがった意見が百出するが, それは他の教育問題からきりはなして別個に考えるところからくるのであって, 実際にはむづかしい問題ではないとしている。性教育が何を目的にしているのかさえ明確であれば, おのずからこれを達成するみちも明確になるといえる。

革命後のソビエト社会は, 市民に対し, 自分は社会の一員であること, 自分は自由の市民であること, 社会主義建設の参加者であること, つまり社会全体の利益をつねにまもるといふ社会道徳をもっており, この社会道徳は性生活に具体化された場合, 男女の性生活が家庭と愛情という生活の二つの面をつねに調和のとれた関係にあることを要求している。したがって性教育の目的は, 「子どもたちが愛情をもとにしてはじめて性生活をたのしむことができるように, また自分の快楽と愛情と幸福を家庭を通じて実現するように」育てることとなる。「性教育はほかならぬ愛情の教育, すなわち大きい深い感情生活と志向と希望との統一でいふどられた感情の教育でなければなりません。」

そして, このような愛と家庭生活の問題のなかでは, 「人間の一般的能力, その政治的, 道徳的風格, その発展, 労働能力, 誠実さ, 自由への忠誠, 社会への愛」が決定的な役割を果たすのであって, それゆえに性教育の目的を達成する手段として大切なことは, 「性教育用のなにか特別な方法ではなく, 教育活動の総体とその全背景」となる。

「性教育の諸問題にとっておきのように考えられている特定の教育方法や手法(がさまざまに提起されているがこうした) 特別な忠告にこそ性教育にとっていちばん有害なことがふくまれている」と断定し, 「正直, 働く能力, 誠実さ, 素直さ, 清潔の習慣, 真実のことをいう習慣, 他人を尊敬すること, 他人の感情と趣味を尊重すること, 祖国への愛, 社会主義革命の理念にたいする忠誠を子どもに教育することが, 性関係のことでその子を教育することになる」のであって, これが「未来の家庭人, 未来の夫や未来の妻を教育することで親が成功するかどうかをある程度決定する」と指摘している。

以上のようなマカレンコの考えは, 自然および社会の発展史における唯物弁証法的把握を基礎としているものである。動物は種の保存の目的のみ, 性的欲求をもっているがゆえに, 墮落というものは起こりえないが, 人間の性生活は種の保存とともに, それとは無関係に快楽への欲求をもつという点で, 動物のそれとは本質的に異なっている。そしてその快楽の方向づけ如何によって精

神的な発達のコトもなれば、享樂的な墮落へのコトともなる。その方向づけこそ、性教育の目的となると考えられている。

人間は、その長い発生史のなかで、自然的にも社会的にも発達してきたが、エンゲルスの唯物論的見解によれば、そのような歴史における究極の規定的要因は、「直接的生命の生産と再生産とである。しかしそれ自体さらに二とおりにわかれる。一方では、生活資料の生産、すなわち衣食住の諸対象とそれに必要な道具の生産、他方では、人間そのものの生産、すなわち種の繁殖がこれである。ある特定の歴史的時代およびある特定の国土の人間の生活がいとなまれる社会的諸制度は、二種類の生産によって、すなわち、一方では労働の他方では家族の発展段階によって制約される」。

その二つを下部構造として、性的関係をはじめとする諸々の道徳律が一定の上部構造を形成するが、奴隸制社会にはじまる階級社会では、「比較的大きな富が一人の——しかも一人の男の——手に集積されたことと、またこの富をほかのだれでもなくまさしくこの男の子供に相続させようとのそんだこととの結果」一夫多妻や単婚といった婚姻形態をとり、原始時代「太陽」であった女性は男の従属物、単なる享樂の対象に転落するのである。単婚あるいは一夫一婦制とはいえ、それは結局女性の側のみのそれであって、わが国の戦前の姦通罪のように、他の男との性的関係は女性にとっては犯罪となるが、男ではむしろ名誉もしくは甲斐性とみなされる。その構図は基本的には今日にひきつがれている。「古来の娼妾制が、現代において資本主義的商品生産によって変化させられ、これに適應させられてゆくにつれ、公然たる売淫に転化してゆくにつれて、それはますます退廢的な影響をおよぼすようになる。しかも、それは女より男のほうをずっとひどく退廢させ……全男性界の品性をいやしくする。」<sup>10)</sup>

そして Makarenko は、このような社会の発展法則にもとづきながら、「10月社会主義革命は階級社会のこういうでたらめな遺風をのこらず一掃しました。革命は家庭をくさりから解放し、女性にたいする男性のかずかずの侮辱的態度から女性を解放しました。10月革命後をはじめ人間の性生活が昔から人類があこがれていた理想に近づいた」と認識しているが、さきの性教育の目的は、そのような認識から導きだされているのである。

Makarenko の理論と実践は、その後のソビエトの性教育において発展させられているが、現代の性教育に関する研究のなかから Koresov らのものを補足的にとり

あげておく。

Makarenko も性教育をせまい生理学的問題への矮小化に反対しているが、Koresov らは、性教育を「教育の他の分野、ましてや医学や衛生学などの対象とは異なる独自の対象を持った教育の一分野」ととらえ、「性教育の『衛生学的側面』は年齢別衛生学の要素以外の何ものでもなく、それ自体全く教育ではない。性教育の『医学的側面』も、同様に教育ではなく、教育学の対象とは異なる固有の対象をもった独立の科学としての医学である。性教育に対する上述のアプローチはすべて、教育学的对象の特殊性を衛生学的・医学的問題にすり替え、そして正にそれによって共産主義教育の重要な部門の一つを衛生学や医学などの特殊な問題で示すことにより、その独自の意義を奪っている。」

そして Makarenko にみた性教育の目的を具体化して、つぎのような課題に定式化している。

- (1) 広い意味における個人の健康の維持
- (2) 真に価値ある健康な家庭の創造
- (3) 夫婦の正しい家族計画——社会の利益にもっともよくこたえるような家族の出産計画
- (4) 労働活動の過程における両性の肉体的・精神的な性的特質を考慮し、尊敬する能力

また Makarenko らは、性教育の欠如、それ自体を、すなわち一種の性教育とみているが、これはさきにもみたエンゲルスや Makarenko の論点からすれば、支配階級にとって性的関係や性愛あるいは家族の歴史的規定について大衆を無知のままにしておくことは自己の利益に合致するものであるゆえに、たしかに真理であるといえる。このことは、今日の性情報の氾濫が商業資本によって作りだされ、それに対し教育が有効な組織的対処の策をほとんどうちだせない状況をみても理解できよう。

そしてまたこのような唯物論的観点に立って、Koresov らは性教育を体系化するうえでの方法論的原則のなかで主導的なものとして、人間の社会的本質の概念および性差の本質と性別の意味の理解という二つの原則をあげている。

以上述べてきたことは、健常児を想定して展開されたものであるが、しかしこのことは基本的に障害児にも共通している。しかも「重症者と心身障害者をなぜ治療するのかという問題を問いつめてゆくことは、逆にわれわれの医学・医療のありかたを反省する道にも通ずることになる」<sup>12)</sup>のと同じように、障害者の性および性教育は人間全体のそれらについての問いなおしを迫り、変革を実現するうえでの強力な契機となる可能性をも含みもっているのである。なぜなら、まず、性教育がむづかしい

複雑な教育と映るのは性教育がすぐれて歴史的社会的な広範にわたる問題の側面という性格をもつものであって、そして、障害児は社会的関係を規定する経済構造のなかでは「相対的過剰人口のいちばん底の沈澱物」として、<sup>13)</sup> 浮浪者、犯罪者、売春婦、孤児貧児、羅病者などとともに富の資本主義的な生産および発展の一つの存在条件となっているからである。労働権と同様、性に関する諸権利をまっさきに奪われ、また一番遅れて保障されるのであり、障害者は性および性教育に関する諸問題、諸矛盾の集中点に位置しているのである。

ここに述べた教育目的等は、ストレートにわが国の性教育にもちこむことは必ずしも適切でない。しかし、教育基本法に掲げられた教育の目的は、第2次世界大戦を経て国民が新しく獲得した教育に関する認識の一つの到達点を示すものであり、ある意味で、Makarenko らの目的規定は教育基本法の内実化とも考えられる。性教育は平和と人権の教育の一環として位置づけるものであり、憲法・教育基本法の遵守とその実践的展開は、性教育においても不可欠の視点である。<sup>14)</sup>

## II 障害者と結婚

性教育は結婚の問題と関係づけながら行うべきとする考えは多くみられる。

日本性教育協会が、総理府の委託を受けて1981年に「青少年の性行動調査」をおこなっているが、それによると、ちえおくれや肢体障害の子どもの保護者が結婚についてどのような希望をもっているかがわかる。図1はその集計結果である<sup>15)</sup>

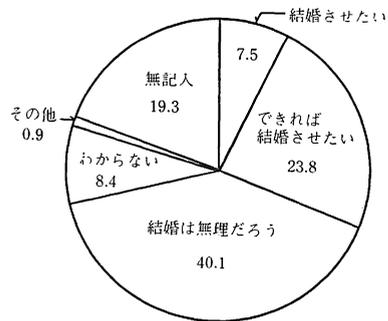
「結婚させない」は、ここでは明示されていないが、これも本来結婚は希求すべきものとしてとらえられている証左といえよう。<sup>16)</sup>

高木は、障害者、とくにちえおくれの場合の結婚の条件として、つぎの4点をあげている。

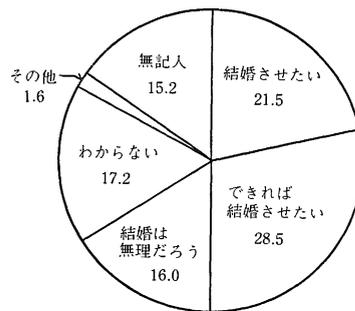
- ①結婚の意味を知っている
- ②生理的に成熟している
- ③社会生活ができる（他人との共同生活）、そこには自己主義とともに、他人に譲歩し、自分の行動を調節し、協力してゆく機能が要求される。
- ④日本の男性では少なくとも経済的な観念をもち、自立し、妻子を養い、また子どもを養育する能力などが要求される

「結婚の意味を知っている」人間は、健常者のなかにも数少ない。生理的に成熟しているか否かは、「結婚」の定義そのものにかかっている。ここでいわれている「社会生活ができる」は、適応主義的・受動的人間観にもとずいており、従来の障害児教育に貫かれている基本

図1 ちえおくれ



肢体障害



的論理である。また、これは、わが国の婚姻史でつねに女性にのみ強いられてきたことである。この点とつぎの「男性の役割」は、まさにさきにもみた階級社会の婚姻形態に関する諸規定と符合している。

搾取・被搾取の成り立つ社会の変革を展望せず、その枠内での解決を考えているかぎり、当然高木のいうように「以上のような諸条件を念頭において障害者に想いをめぐらすとき、彼らの結婚に関しては非常に困難を認めざるを得ない」くなるのであり、それは科学的に裏づけられる必然的帰結である。<sup>17)</sup>

エンゲルスによれば、生産手段が社会的所有に転化されれば、賃労働・プロレタリアートは消滅し、売春もその必要性を失い、男にとっても事実上の単婚となる。また個別家族は社会の経済単位ではなくなり、私的な家計は社会的産業に転化し、庶子であろうとなかろうと子どもの扶養や教育は公的事業となる。そして性愛は、古代人のエロスとは本質的に異なって、男女が平等の立場で互いに愛し愛されることを前提として成立し、双方の心に愛する人を所有できないこと、愛する人と別れることを不幸と思わせるだけの強度と持続度をもつものとなる。古代人のエロスは、女性の感情・心情を圧殺した男優位の性愛であり、また強度と持続はいわゆる姦通、

「不倫の恋」の場合にのみあらわれる。

子孫に伝える財産もなく、したがって男系を維持する必要のない富をもたない人々のあいだでは、そのような性愛にもとずく結合も珍しくない、ちえおくれの青年の間でも「二人（ともちえおくれだが）で共同してやっていこうという意欲が彼らなりに育っていることでした。とくにD君には奥さんをなんとか支えていこうという姿勢がみえ、人間的にも大きくなったようです。まじめに働いてお金をためて……など、将来への見通しも話してくれました。結婚して家庭をもつことが働く意欲をたか<sup>18)</sup>め、自覚的な充実した生活の可能性を大きくしている」といった例は少なくない。さきに高木があげていた条件は、結婚の前提としてであったが、それらは、むしろ結婚によってこそ形成される側面をももっていることを考えなければならない。

日本のちえおくれの福祉と教育において、長年指導的役割を果たしてきた登丸も、高木とほぼ同じ条件を挙げ、「結婚という目標を与えない性教育は……全くの袋小路であって、方向を与えてやることのできない」といっている。登丸は、「重度や中度の多くの人たちの性のしつけや性教育について結論を得ることができないでいる」というが、結論は、唯物弁証法の法則に則らなければ得られない。

ちえおくれの人々にも、健常者がするような性的行為・行動や性的探究心をもつことは、同じように認められ<sup>20)</sup>てしかるべきとする議論も、そのような社会発展の展望との関連がなければ抽象論的スローガンにおわらざるをえない。また、婚前交渉による私生児の誕生の経済（家計）的影響を教えることが必要という考えも、資本主義社会での問題といえる。

### III 労働と性教育

障害児に限らないが、性的関心の昂進や「問題行動」の発現は、“てもちぶさた”の状態に起因するのであり、なにか熱中するものを与える方向で解決すべきとする考えが、一般的にみられる。障害児、とくにちえおくれの場合には、この方向づけが作業やしごとなど、身体を動かす方面にむけられることが多い。そして、この作業などを通じての技術的習熟と社会適応の力を身につけることは、その後の性の方向づけにとって有効であるとするみかたも<sup>22)</sup>ある。

しかし労働は、エンゲルスがいうように、人間の生あるいは社会的諸制度を規定する二要因の一つとなっており、そこにはより深い意味づけが与えられねばならな

い。

<sup>23)</sup> Makarenko は、性道徳のみならず、人格の発達と関連づけて、そしてまた集団主義教育の観点を基底におきながら、スポーツや文化活動と合わせ、性教育の一環として労働のもつ意義をつぎのような例で示している。

「つきにだいたい性教育の条件は子どもに雑務としごとを適度にあたえることです。……この問題は性教育でも大きな意義をもっています。夕方にほどよいつかれをおぼえること、毎朝その一日のなすべきことやしごとのことなどを考えること——これはすべて想像力の正しい発達にとってもその日一日子どもの力を等分にわりあてるためにも、ひじょうに重要な前提となるものです。こうすると、なかみのない、ものぐさな放浪性、よけいな想像力、いきあたりばったりの会合や感激にあこがれる気持は心理的にも肉体的にもおこってきません。正しくきちんとしたレジムの下で最初の幼年期をおくった子どもたちは、ふつう大きくなって、そういうレジムに共感をもち、それに慣れていて、人にたいする態度もきちんとしてきます。」

性的行為・行動にむけられるエネルギーを、単に拡散的に発散させるための方便としての労働としてとらえられてはいない。性教育の目的に沿って方向づけられている。

### IV 認識発達と性教育

「なぜするの？」

「おもしろいんだもん」

「どこがおもしろいの？」

「だって、キャーなんて声あげて、にげるんだもん」

「へえ、A先生（特殊学級の他組担任）のスカートめくったら」

「だってしかられるもん」

「へえ、A先生はしかるの。じゃ、おともだちは、おこらないの？」

「うん、おもしろいよ。キャーって言ってね。にげるんだ」

<sup>24)</sup> これは、女子のスカートをめくるちえおくれの6年生男子と担任との会話である。現像的には、大人の側からすれば性にまつわる問題行動であるが、子どもにとって主要な関心はむしろ他児との関係であり、行為よりも相手の反応、すなわち結果のほうにある。具体的にこの子どもが発達的にどのように段階にあり、力をもっているか明示されていないが、同じく性に関する行為であっても、その意味は、子どもの発達力に応じて受けとめ

表1 性にかかわる行動の特徴

学部	行動の特徴 (㊦—中度児 ㊧—重度児)
小学部	ア 男女の区別を理解する。 ㊦
	イ 男子が女子の後を追っかけて衣服や髪を引っぱる ㊧
	ウ 下半身裸になって便所へ行く。 ㊦㊧
	エ 性器いじりをする。 ㊦㊧
中学部	オ 男女の区別がハッキリ解り、自分の性別が発表できる。 ㊦
	カ 異性に対して関心が深まってくる。 ㊦㊧
	キ 走ってきて女教師の陰部や、お尻にパッと手をあてその感触を楽しむ。 ㊦ エッチスケベ結婚しよう、ということばを発声する。
	ク 生理、僅かながら初潮が始まる。 ㊦㊧
中学部	ケ 性器いじりをする。 ㊧㊦ (周りの者を意識しながらする。㊦)
	コ 異性に対し、興味関心が強くなる。 ㊦
	サ 格好より歌手にあこがれ、その名前を云ったり歌を歌って喜んでいる。 ㊦
	シ 異性特に若い教師に対し体の接触を求め甘える。 ㊦㊧
	ス 色気が出始め服装、髪型、髪飾り等に関心が強くなり、自分の身を美しく飾りたがる。 ㊦㊧
	セ 黒板への落書き。 ㊦
	ソ 生理がほとんどみられる。 ㊦㊧
	タ 夢精が始まる。 ㊧㊦
	チ 男女なんとなく近くに寄って、ほほを寄せ合ったり、口づけをしようとする。 ㊧
	ツ ラブレター ㊦
	テ 体重測定時の、のぞき。 ㊦
	ト 若い男教師の姿を見ると大声でわめいたり、不安定状態となる。 ㊧
	ナ 人物画の中にハッキリと性別の性器を描く。 ㊦
	ニ テレビ、特にメロドラマ、歌手、平凡等雑誌に興味をもつ。 ㊦
ヌ 異性に対して、思いやり、助け合い、協力等の場がでてくる。 ㊦	

方が変化していくことをうかがわせる一つの例である。

表1は、ある養護学校(ちえおくれ)<sup>25)</sup>でピックアップした、「性にかかわる行動の特徴」である。ここでは、小学部、中学部といった生活年齢による区分を一步すすめて、障害の程度への着目がなされている。このことは、アメリカでも AAMD の基準に依拠するかたちで、ほぼ共通におこなわれている。ただ、このような分類は、一般的な理解の基礎として用いられるべきであって、各レベルの特徴づけから個人個人を規定する危険性には注意を払わねばならないといった指摘もなされてい

26)  
る。

性教育はその教授において子どもの発達の力をみさだめつつ、またその学習によって意識や行動のより高次の規範を子どもが獲得する。そのような内容と方法で組織されなければならない。

人口再生産と母子問題にかかわって、野村は、「出生、生長発育、労働、結婚、次の世代の生産……という人間の生活史(ライフサイクル)のどの段階で、どんな抑圧因子が働くものであるか、またそれによって人間の可能性がどんなに抑圧されるものであるか、また健康可能性

を充分に発揮させるにはどうすればいいか、ということ  
を社会全体の運動の中で明らかにすること、これが健康  
問題の核心であり、同時に衛生学の重要な課題」と指摘  
し、その抑圧による人格の危機がおこる局面をつぎのよ  
うに分類している。

- 出生前後の危機
- 幼児期の危機
- 学童生徒期の危機
- 労働年齢における危機
- 家族の危機
- 「場」における危機
- 労働能力低下（高齢化）に伴う危機

このような観点は、性教育を発達との関連で考えるう  
えでも示唆的である。

ところで、性教育でとりあげられる現実問題として  
は、性器の解剖学的名称や性交の具体的方法をどの段階  
で指導すべきか、といったことが今日では大きな部分を  
占めている。

この点に関連して、<sup>28)</sup> Makarenko の見解を参考にする  
とつぎようになる。

性生活は恥ずかしいものでも秘密なものでもないの  
であって、おとぎ話的に子どもをだますような教え方は問  
題がある、正しい性教育はできるだけ年少のころから説  
明し性愛が恥ずべきものでないことを理解させることに  
よって実現される、といった考え方は誤りであり、厳しく  
排斥しなければならない。どのような知識にもそれを知  
るときというものがあるのであって、「どうして子ども  
がうまれてくるのか」を子どもがたずねても、性急にこ  
と細かに説明する必要はない。そのようなことを質問し  
てくる子どもの発達段階では、まだ性的好奇心などなく、  
冗談や微笑で軽くうけながしても子どもは苦にすること  
もなく悩みもしない。このような問題への現実的興味は、  
性的成熟後にあらわれるのであって、しかもそのころに  
は、そうした質問は発しないくらいに「知っている」  
のである。

基本的には上のように入れられようが、ただちえお  
くれなどの障害児の場合には、このまま Makarenko の  
考えを受け入れて実行するわけにもいかないのもまた事  
実である。健常児との共通性と相対的な独自性をふま  
えた検討が求められる。ただし、どのような知識にも  
それを知るときというものがあるという視点は、生活史  
における発達のふしめに視点をあてた性教育の体系化の  
うえで重要と考えられる。

以上、結婚、労働、発達と性教育との関連についてと  
りあげたが、なお列挙するにとどまっているといわざる

をえない。問題はむしろこれら相互関連なのであるが、ま  
ずは、性教育においてそれらを統一的にとらえることの  
必要性を指摘するにとどめて本稿をおわることとする。

#### 参 考 文 献

- 1) ソル・ゴールドン；ハンディのある子どもと若者の  
性教育，現代性教育研究，1979，12月号，p.9
- 2) 門脇節朗；小学校における性教育（高学年），日  
本性教育協会第14回全国性教育研究大会要項，1984，  
pp.44-45
- 3) 現代性教育研究月報，1983，11月号，pp.4-5  
この調査は練馬区中学校教育研究会性教育部会によ  
るもの
- 4) ソル・ゴールドン；前掲と同じ
- 5) 同上，p.8
- 6) ピアネール・多美子；現代性教育研究月報，1984，  
1月号，p.6
- 7) 例として  
中沢和彦；性教育は「生」の教育，実践障害児教育  
No.122，1983，p.4  
人間関係の学習としての性教育を，子どもと教育  
No.120，1984，pp.4-21
- 8) マカレンコ全集V（邦訳），明治図書，pp.360-365
- 9) エンゲルス；家族，私有財産，国家の起源，国民文  
庫版，p.8
- 10) 同上書，p.196
- 11) コレソフ；性の発達と教育（邦訳），新読書社，  
pp.202-212，1981
- 12) 川上武；生命のための科学，大月書店（国民文庫），  
p.78，1973
- 13) マルクス；資本論第1巻第2分冊，大月書店版，  
pp.838-839
- 14) 大坪和夫；生命の尊さを教える場を数多くもつ，子  
どもと教育，No.120，pp.30-31，1984
- 15) 大井清吉；心身障害児童・生徒の性的発達と性行  
動，現代性教育研究，No.57，p.15，1983
- 16) 高木俊一郎；障害者の性の発達としつけ（性教育），  
小児の精神と神経，vol.13 No.1，pp.29-30，1973
- 17) エンゲルス；前掲書，pp.97-99
- 18) 小川豪，菊池義昭；家庭をもつことが働く意欲に，  
みんなのねがい，No.132，p.44，1980.
- 19) 登丸福寿；性の発達としつけについて；小児の精神  
と神経，vol.13 No.1，p.28，1973
- 20) Monat, R. K.; Sexuality and the Mentally  
Retarded, College-Hill Press, p.90, 1982.

- 21) French, E. L. and Scott, J. C. ; How you can help your retarded child. J. b. Lippincott comapny, 1967.
- 22) Tansley, A. E. and Gulliford, R ; The education of slow learning children. Routledge & Kegan Paul. p.233, 1960.
- 23) マカレンコ ; 前掲書, p.366
- 24) 「精神薄弱児研究」 編集部 ; 精神薄弱児の性の指導の実際, 精神薄弱児研究, No.170, pp.12-13, 1972
- 25) 石橋京 ; 心身障害児・者における性教育, 日本性教育協会第14回全国性教育研究大会要項, p.69, 1984
- 26) Monat, R. K. *op. cit.*, p.5
- 27) 野村拓 ; 人口再生産と母子問題 (つづき), 健康会議, No.349, p.52, 1978
- 28) マカレンコ ; 前掲書, p.363